

## 連携先世界遺産： 醍醐寺

### 本科目が取り組んだ課題・改善事項

醍醐寺のパブリックな取り組みを観察、調査し、さらに広いパブリック化を模索する。

#### ■ 受講生

大城 友莉奈（京都橘大学・文・2）、垣内 彩那（京都橘大学・文・3）、岸 薫美（京都橘大学・文・4）、後藤 けい（京都橘大学・文・3）、徳泉 翔平（京都橘大学・文・3）、吉田 稜也（京都橘大学・文・4）、嵯峨根 絵美（京都橘大学・文研・2）、

#### ■ 担当教員

一瀬 和夫（京都橘大学・文学部・教授）

### 活動目的・概要

醍醐寺のパブリックな取り組みを観察・調査し、さらに広いパブリック化を模索しようとしています。

醍醐寺には京都最古、952年の建立の五重塔の他、桃山時代以降の数多くの堂宇が存在し、特に三宝院には桃山時代の襖絵葵の間や表書院もあります。下醍醐、上醍醐含め100余りの堂塔がある広大な境内では、2月に「五大尊仁王会」4月に「豊太閤花見行列」が毎年行われることは著名です。

こうした行事だけでなく、醍醐寺のもつ歴史文化を起点に子どもから大人まで親しめる「醍醐寺てらこやプロジェクト」や中・高校生、大学連携プログラムまで、多種多彩な活動プログラムがあり、私たちはそうした醍醐寺の活動を知り、その全容を観察・把握、理解し課題を発見し、さらに分析することで広く周知活用されるためのパブリック化を試みています。

具体的には、現在行われている「醍醐寺てらこやプロジェクト」「観光大使」「京の杜プロジェクト」などの取り組みの観察やヒアリング等を行い、さらに周辺に向けてより広く世界遺産をパブリック化する活動課題について醍醐寺関係者と発見し、より深く関わりたい人たちを誘発する新たな活動のアイデアなどを探っています。



#### ◆ 主な活動

2015. 5. 30 全体オリエンテーション・コミュニケーショントレーニング  
 2015. 6. 20 インタビュートレーニング  
 2015. 6. 27 観光大使・てらこやインタビュー  
 2015. 7. 11 ヒアリング（対象者：醍醐寺 仲田様・高橋様）  
 2015. 8. 3 京都橘大学で話し合い  
 2015. 8. 5 万灯会（撮影）  
 2015. 8. 10 観光大使・てらこや（参加・撮影）  
 2015. 8. 11 観光大使（参加・撮影）

2015. 9. 11 京都橘大学で話し合い  
 2015. 9. 17 醍醐小学校インタビュー（対象者：醍醐小学校 校長先生）  
 2015. 9. 19 観光大使インタビュー（対象者：参加者子ども、保護者様）  
 2015. 9. 26 プレゼントレーニング～レクチャー編～  
 2015. 10. 2 京都橘大学で話し合い  
 2015. 10. 9・10 宮古小学校インタビュー他（対象者：校長先生・児童他）  
 2015. 10. 10-14 PBL中間発表データ集約  
 2015. 10. 15 PBL中間発表調整打合せ

## 活動の成果

## 「桜の下で逢いましょう」

醍醐寺はさまざまなプロジェクトを立ち上げています。てらこやプロジェクト、こども観光大使、少年少女の集いの万灯籠などを観察させていただきました。そのなかで醍醐寺の話の中でも、特に印象深かったのが、京の杜プロジェクトでした。

そこで、醍醐小学校を訪ね、先生や児童からクローンしだれ桜の話や交流のようすをうかがいました。その結果、桜が今どきになっているのか、その桜をつうじてどのような遠方の交流が計れるのか、児童たちにどのようなニーズがあるのかを知りたいと思いました。

宮古小学校でのインタビューで小学生の児童から「醍醐の桜のもとで毎日過ごせるのが羨ましい」「少年少女での体験が忘れられない」などの意見があり、醍醐のしだれ桜が東日本にひろがり未来に受け継がれるよう、つまり大きくパブリック化して大きな花を咲かせるように企画してみました。

目的として、醍醐寺という場で、本物(文化財)や普段触れられないものに触れてもらう、祈り(感謝、思いやり)を感じてもらおうということがあります。

企画提案してみた内容は、崎山小学校、宮古小学校、醍醐小学校の1泊2日の泊まり交流会です。それぞれの学校で児童の大きく広げた手形とそれに祈り・感謝・思いやりを託した言葉や絵を描いてもらい、それをみんなで持ち寄り、それを花びらにみたくて大きなしだれ桜を作るといったプロジェクト。自分たちの学校の桜情報を交換しあう交流会を考えています。

その交流日程は、3校が春休みの3月25日～4月6日の間がいいのではと考えています。



## 醍醐寺が行う数々のプロジェクト



## 活動を振り返って

今回、京都世界遺産PBL科目で本格的なインタビューを行う際に相手に合わせて会話、言葉遣いを考えたり、要点をまとめながら話すこと、質問をしなくてはならなかったことに、とても苦労しました。学校側への依頼書類の作成等も難しかったです。

しかし、この授業に参加して醍醐寺の様々な取り組みをより近くで観察・ヒアリングを行っていくうちに、お寺のイメージが「硬い」というものから「親しみやすい」、「気軽に学びに行ける場」というものへ変わりました。醍醐寺には、多種多様なプログラムがあり、そのプログラムをよりパブリック化させていくことで今回私たちが感じたような効果が生まれるということを実感しました。

また、そのプログラムの中には、「祈り」という感謝の気持ちを忘れない、他者を思いやる気持ち、当たり前と思わない、など人が生きていく上でとても大切なことを根本に据えて取り組みがされていて私たちもその精神に触れることで、毎回身を引き締められる思いで活動ができたと思います。

企画プロジェクトはこれからですが、楽しいものにしていきたいと張り切っています。

## 担当教員からのコメント

一瀬和夫

最初の立ち上がりは、学生のバイト事情など、学生ともに都合のつく日程調整が大変だった。さらに醍醐寺プロジェクトなどの日程などもあわせるとんでもない状態になった。その場合の組み立てに多少関わったが、そうするとかえって、学生の間で不協和音を呼ぶことになったので、初期のファシリテーター位置にもどった。そのうち、それぞれの学生が分担し、互いの持ち前で、遊撃隊状態となってフィールドに出るようになりました。そして、その観察取材後、たとえ30分でも、その観察情報を持ち寄って全体ミーティングするようになりました。そのときに、話題は色々と波及・発展し、アイデアや活力といったものが、回を追う毎に活発になりました。そして、その活動分担毎でブレイクし、それぞれが役割を果たしているのをみて、たくましさを感じた。そのプロセスの積み上げを大事にしてほしいと思った。

## 活動資料



醍醐寺レクチャーの様子



京都・醍醐小学校の桜観察



岩手・崎山小学校の桜観察

岩手・宮古小学校の桜観察